めとの孤本の汗

027
106
2

027
106
2

愛知女子大図書之印

入て掃ふの表の月　九起

引伸く鶴乃おとし足乃　百合

早蕨のみすく伸る庭さえ　梅宮

ふるき代示紙文字直しなり　起

汐風にふるのはくおさかるの笠　古

おれしるすを紙　句　宮

緊屋にすゝ猿手の宗をたゝ角て　起

おゝ言き朝乃看　狂　古

うゝ沼の足を浜をふ屋より　宗

面をいとゝ人はとをまり　起

菖蒲酒の匂ひ濃へ流せる　古

なこやあゝつまる　椋　古　宗

月のけゝ一歩ゝ背ゝ涼ゝ　起

あゝ鍋をふふ汁ふたく　古

うふついて百里ゝ角力取　宗

勢加ふ鳥右ゝ極分　紀

をゝ毛ふ虫出ゝ雷れニッ三ッ　古

歴れ此可木紅茅茅の沈　宗

結所窓つゝふたに広ゝ霜　紀

茅ゝ大ゝ豆ゝ左ゝ　古

見やるに寺院可様八うき　宮
出乳を思いるに猿をはなれ　紀
水仙を切るへとおく小室の花　古
能衣を着る伯母に逢て　宮
後通る足ふるわたき世骨者　起
新ちく見に可傘をのに　古
もこのまに出なと入弘一の後ふるわ　宮

秋も三つの暑いを川秋　起
つくるもぬ霧をふるる庭の月　古
ちるわ俗止も涼屋のいるん　宮
出ると出狂吹まる風吹く　紀
牛まで入いるく　蛙なの　古
乗合俗と望つるきて式　宮
ふるる川術可老も根明る　起

蒲尾菜を干て踏ふめ鳴の

玄孫ゆ記ゑちはる苔生ん　　古等

世ちゝ法風ふれとんと梅の香　　梅室

玄孫ゆ記ゑ孫洞を有る川　　九起

養父入ふ長ゝ乃連を頼ふた　　百合

庭風の池ふ吹くいて乃末　　宮

豆紙空玄ゆ月のあゝ安き　　記

方蓋荊て ち一のき　　磯山　　古

あれ春さきつかた彼こに石ありて　宮
膳に白を床　破こそ乃こそ　起
こつをはたれあたなを後　古
慶除の面に似くるおもせ　宮
古れあるり出たるる思ふ　起
雑鬼もやきうハそれぬ雪年　古
月入天松のあはこ要わこ小東　宮

ふこさ弁ふるおと乳稲あ　起
概孤をちうわとあそ長たふ　古
米変るるをかれふ一する　宮
変をるるロ乳ふうち寸糸車　起
四小一乃ものを撥こ代鈴　古
物もちにふこぬ徐路に改ふ　起
八月乃板可第をつ一こ　宮

おしみる事ふるうぬ心すり　　古

松のさもやたくた桶使　　起

いつもある天狗俗　　宮

ちきてやに光る　　古

家あるさ気軽しいを床浅上　　起

扇子を書へい猿真ねの乳ぬく　　宮

紙乃緒の苗とさぬ下桶百に光　　古

落葉掃き名常意水拓月　　起

庭丁社暖を理乃逃ふをる　　宮

まを八曽呂利社長地を来ぬ　　古

を馬のを温ぬとをを示芳中　　起

ぬ〜とを水を昆布水引　　宮

猿蓬を西女古入を地ぬ川　　古

並題とをんを在た画状　　起

指もとゝ小宿乃窓ゝるあき日ふ　宮

歌乃おとゝやゝ蓮翹の下　華

昭和女子大図書
20141
昭和26年7月21日